

社会資本総合整備計画（活力創出基盤整備）

事後評価書

平成31年1月16日

計画の名称	13 幹線道路のネットワーク強化による地域の活性化及び連携強化（防災・安全）									
計画の期間	平成22年度～平成26年度（5年間）	交付対象	尼崎市							
計画の目標	市内の「幹線道路」の改築や補修・補強を進め、災害時の道路交通を確保し、ネットワークを強化することにより、地域の活性化・連携強化や安全・安心の確保を図る。									
計画の成果目標（定量的指標）	①災害時に交通遮断となる橋梁の耐震補強 ②通学路等の安全歩行空間の増加 ③地域の基幹ネットワークにおける橋梁補修実施率 ④鉄道（JR東海道本線、福知山線等）、河川に分断された地域を行き交う「賑わい」・「交流」などの増加									
定量的指標の定義及び算定式				定量的指標の現況値及び目標値 当初現況値（H22当初） 中間目標値（H24末） 最終目標値（H26末）						
①橋梁の耐震補強率 （橋梁の耐震補強率） = （耐震補強完了橋梁数） / （幹線道路に架かる耐震補強必要橋梁数）	25%	28%	34%	備考						
②通学路等の安全歩行空間の整備率 （安全歩行空間整備率） = （安全歩行空間整備延長） / （整備が必要な路線の延長）	61%	70%	78%							
③基幹ネットワークにおける橋梁補修実施率 （橋梁補修実施率） = （補修実施済橋梁数） / （補修必要橋梁数）	0%	16%	20%							
④鉄道（JR東海道本線、福知山線等）、河川に分断された地域を行き交う交通量（歩行者、自転車、自動車類）を調査する。 （交通量増加割合） = （評価時点の交通量 - H21年の交通量） / H21年の交通量	0%	+6%	+11%							
全体事業費	合計（A+B+C）	7,165百万円	A	6,947百万円	B	0百万円	C	218百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	3.0%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
市内部評価	H30年度
	公表の方法
	尼崎市ホームページに掲載

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業

A1 基幹事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者			要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
											H22	H23	H24	H25	H26		
13-A1-4	道路	一般	尼崎市	直接	尼崎市	市町村道	修繕	(1)山手幹線 外	橋梁耐震補強 3橋	尼崎市						375	
13-A1-5	道路	一般	尼崎市	直接	尼崎市	市町村道	修繕	(1)園田橋線 外	橋梁補修 8橋	尼崎市						128	
13-A1-6	道路	一般	尼崎市	直接	尼崎市	市町村道	交安	(1)道意線 外2線	自歩道整備 L=1.6km	尼崎市						190	
13-A1-7	道路	一般	尼崎市	直接	尼崎市	市町村道	交安	尼崎市内一円通学路対策事業	通学路対策 N=68箇所	尼崎市						60	
13-A1-8	道路	一般	尼崎市	直接	尼崎市	市町村道	修繕	省線以南第41号線外	舗装修繕(市町村道)	尼崎市						320	
13-A1-9	街路	一般	尼崎市	直接	尼崎市	S街路	改築	(都)長洲久々知線(立体)	現道拡幅 L=0.3km	尼崎市						4,864	※
13-A1-10	街路	一般	尼崎市	直接	尼崎市	S街路	改築	(都)猪名寺権堂線外1線(上園橋)	現道拡幅 L=0.8km	尼崎市						600	
13-A1-11	街路	一般	尼崎市	直接	尼崎市	S街路	改築	(都)長洲久々知線(久々知)	現道拡幅 L=0.7km	尼崎市						380	
13-A1-12	道路	一般	尼崎市	直接	尼崎市	市町村道	修繕	(1)立花陸橋ほか2橋	橋梁耐震補強 3橋	尼崎市						30	
											合計					6,947	
B 関連社会資本整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者			要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
											H22	H23	H24	H25	H26		
											合計					0	
番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考	
C 効果促進事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者			要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
											H22	H23	H24	H25	H26		
13-C1-2	計画・調査	一般	尼崎市	直接	尼崎市	計画策定	橋梁長寿命化修繕計画策定事業	長寿命化計画の策定	尼崎市							30	
13-C1-3	施設整備	一般	尼崎市	直接	尼崎市	防犯灯設置	通学路等の安心・安全化事業	防犯灯の設置	尼崎市							52	
13-C1-4	計画・調査	一般	尼崎市	直接	尼崎市	計画策定	舗装修繕実施計画策定事業	修繕実施方針の策定	尼崎市							40	
13-C1-5	施設整備	一般	尼崎市	直接	尼崎市	道路付属施設整備	道路冠水対策施設整備事業	道路排水ポンプ等の改良等	尼崎市							25	
13-C1-6	計画・調査	一般	尼崎市	直接	尼崎市	計画策定	道路整備計画策定事業	交通・環境実態調査及び道路整備計画策定	尼崎市							50	
13-C1-7	道路	一般	尼崎市	直接	尼崎市	調査・点検	道路ストック点検(橋梁)	橋梁点検	尼崎市							5	
13-C1-8	道路	一般	尼崎市	直接	尼崎市	調査・点検	道路ストック点検(道路付属物)	道路付属物点検	尼崎市							15	
13-C1-9	道路	一般	尼崎市	直接	尼崎市	調査・点検	道路ストック点検(のり面)	のり面点検	尼崎市							1	
											合計					218	

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
13-C1-2	今後増大する高齢化橋梁を計画的に維持管理するために長寿命化計画を策定するものである。	
13-C1-3	道路整備(13-A1-6他)とあわせて、通学路等にLED防犯灯等を設置することにより、歩行者空間の安全性の向上や低炭素社会に向けた省エネ化を図るものである。	
13-C1-4	舗装路面性状調査等を実施し、市内全域の舗装劣化状況を把握することにより、舗装修繕の効率化を図るものである。	
13-C1-5	ゲリラ豪雨等に起因する重大事故を未然に防止するため、道路排水ポンプ等機器の信頼性を高め、道路空間の安全性向上を図るものである。	
13-C1-6	本市における道路整備計画を策定することにより、市内の「幹線道路」の整備を進め、災害時の道路交通を確保し、ネットワークを強化することにより、地域の活性化・連携強化や安全・安心の確保を図るものである。	
13-C1-7	橋梁施設について、道路利用者および第三者被害を防止する観点から、施設の損傷状態を把握するための点検を実施する。	
13-C1-8	標識等について、落下や倒壊による第三者被害を防止する観点から、施設の健全性の点検をおこなうとともに、不具合箇所の応急措置をおこなう。	
13-C1-9	カルバートについて、第三者被害を防止する観点から、施設の変状等の異常を把握するための点検を実施するとともに、必要に応じたたき落とし等の応急措置をおこなう。	

その他関連する事業							
計画等の名称		3 幹線道路のネットワーク強化による地域の活性化及び連携強化					
事業種別		交付対象	要素となる事業名 (事業箇所)	市町村名		全体事業費 (百万円)	備考
3-A1'-1	街路	尼崎市	(都)長洲久々知線(立体)	尼崎市		4,864	※
3-A1'-2	街路	尼崎市	(都)猪名寺椎堂線外1線(上園橋)	尼崎市		600	
3-A1'-3	街路	尼崎市	(都)長洲久々知線(久々知)	尼崎市		380	
3-A1'-4	道路	尼崎市	(1)山手幹線 外	尼崎市		405	
3-A1'-5	道路	尼崎市	(1)園田橋線 外	尼崎市		125	
3-A1'-6	道路	尼崎市	(1)道意線 外2線	尼崎市		190	
3-A1'-7	道路	尼崎市	尼崎市内一円通学路対策事業	尼崎市		60	
3-C1'-1	計画・調査	尼崎市	道路整備計画策定事業	尼崎市		50	
3-C1'-2	計画・調査	尼崎市	橋梁長寿命化修繕計画策定事業	尼崎市		30	
3-C1'-3	施設整備	尼崎市	通学路等の安心・安全化事業	尼崎市		52	

A'	6,624百万円	B'	0百万円	C'	132百万円	$(C+C') / ((A+A') + (B+B') + (C+C'))$	2.5%
----	----------	----	------	----	--------	---------------------------------------	------

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況				
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		橋梁の耐震補強および補修を行うことにより、市民の安全性が向上した。 通学路対策を行うことにより、児童通学の安全性が向上した。 立体交差事業を行うことにより、鉄道に分断された地域を行き交う交通量が増加し、歩行者、自転車または自動車類の利便性が向上した。		
II 定量的指標の達成状況	①橋梁の耐震補強率	最終目標値	34%	目標値と実績値に差が出た要因
		最終実績値	34%	
	②通学路等の安全歩行空間の整備率	最終目標値	78%	目標値と実績値に差が出た要因
		最終実績値	74%	
	③基幹ネットワークにおける橋梁補修実施率	最終目標値	20%	目標値と実績値に差が出た要因
		最終実績値	20%	
	④交通量増加割合	最終目標値	+11%	目標値と実績値に差が出た要因
		最終実績値	+21%	
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)				
3. 特記事項 (今後の方針等)				
当該整備計画の実施期間はH26年度までであったが、尼崎市中心部地域において、別の整備計画に基づき実施していた関連事業 (都)長洲久々知線(鉄道立体交差事業)の完了後、交通量の照査を行い、H30年度に事後評価を行った。				

(参考図面) 活力創出基盤整備

